

領域4 インフォーマルミーティング議事録

報告者 平山祥郎 (領域代表)

2010年3月21日(日) 12:30~13:30 HW会場

代表 平山 祥郎 (東北大)

副代表 山田 省二 (北陸先端大)

運営委員 枘富龍一 (東大)、村上修一 (東工大)、三野弘文 (千葉大) (~20010.4)

野村健太郎 (東北大)、大橋琢磨 (阪大)、羽田野剛司 (ICORP-JST) (~ 2010.9)

【報告事項】

1. プログラム小委員会・領域委員会 (2009.11.25)

(1) 第65回年次大会の招待・企画講演、シンポジウム講演の検討と決定

領域4関連は以下の通り。

○招待講演、企画講演：

- ・領域5・4 「ワイドギャップ半導体微小構造の光学応答とその制御」(伊藤先生)

招待講演 20pHK

- ・領域6・4・3 「強磁性体/超伝導体接合の理論研究の新展開」(横山先生)

招待講演 21aHY

招待講演60分は長すぎると言う指摘があり、会場の関係もあり45分に。企画講演の本来の趣旨はホット・トピックス、チュートリアル・トーク、国際交流を視野に入れたものなどであるが、招待講演、企画講演の区別がはっきりしないとの指摘があった。将来はひとつにする可能性もあるが、この点は時間をかけて考えることに。1時間程度、研究を分かり易く紹介するチュートリアルは良いかもしれないが、2010年秋スタートのレビューセッションとの兼ね合いが課題。

○シンポジウム：4件採択

- ・領域5・4・8 「半導体のキャリアドーピングと光」21pGV

- ・領域6・4・8 「トポロジカル凝縮系の最近の話題」21pHX

- ・領域7・4・6・9 「グラフェンの生成・評価と物性-最前線と展望-」22pGV

- ・領域4・3・6・9 「量子スピンホール系・トポロジカル絶縁体の物理とその展望」

22pHV (「トポロジカル凝縮系の最近の話題」とは同様のシンポジウムであるが、最近注目を集めている分野で材料系が異なることもあり、2日間にわたって行うことを決定。この関係で領域4の提案に領域6も加える。)

最終的には前提案が採択。部屋に関しては、各領域の優先順位が高いものから優先権。英語講演がある場合は、どのように相互理解を深めるか考慮が必要。社会問題が絡むシンポジウムに関しては今後慎重な対応が必要になるケースも。

○第4回若手奨励賞：受賞記念講演2件、選考結果説明1件 21pHV

(2) 若手奨励賞に関して

審査委員会の名簿や審査過程を明確にして欲しい。(きちんと選考していることを示すことが重要)。領域内内規に関しては今回のインフォーマルミーティングで必要なものは討論。4-5月

には物理学会に通知し、理事会で承認。なお、領域4の受賞者数の上限は、今後も2名。

(3) Jr. セッション

中学、高校の部活動の研究発表、3月21日に実施。審査は領域代表が行う。

2. プログラム編集会議 (2009. 12. 1)

- (1) プログラム編成会議には、東京近郊の領域運営委員（枘富委員、村上委員）が出席し、プログラム編成、インフォーマルミーティングの申し込み等の作業を行った。事前のカバーシート作成は全運営委員で分担した。
- (2) 講演者の希望に基づき領域4・7合同セッション「グラフィエン」(21aGS)を作った。これとは別に、領域4、7各領域でグラフィエン関連のセッションをそれぞれ設けた。

3. 第4回日本物理学会若手奨励賞（領域4）

審査委員会

- 委員長： 現領域4代表 平山祥郎（東北大）
- 委員： 前領域4代表 江藤幹雄（慶大）
- 委員： 小宮山進（東大）
- 委員： 落合勇一（千葉大）
- 委員： 吉岡大二郎（東大）

領域4のメーリングリストを利用して、2009年6月11日～2009年7月27日の期間自薦・他薦の応募を呼びかけたところ、3件の応募があった。8月31日までに、応募書類を元にまず各審査委員で個別に評価表に評価ならびにコメントを記入。集計結果を元にメールで議論した後、2009年9月27日、物理学会の会場で、どうしても都合のつかなかった小宮山先生以外の委員が集まり、(小宮山先生からはメールでしっかり意見を伺った上で) 議論し、次の2名を物理学会に推薦することを決定。領域4を代表して平山が10月2日に物理学会に推薦し、10月の物理学会理事会で正式に決定された。

越野幹人氏（東工大）、水落憲和氏（筑波大）

4. 領域4メーリングリスト (jps-semicon@appi.keio.ac.jp) への参加呼びかけ（継続的）

学会に関する各種情報や意見の交換が行われるので、学生も含め是非登録をお願いします。メーリングリストとその登録に関しては、領域4のWeb (<http://div.jps.or.jp/r4/index.html>) をご覧ください。

【審議事項】

1. 次期領域代表・副代表（任期：2010.10～2011.9）の確認、承認

代表： 山田 省二（北陸先端大）

副代表：

次期領域副代表の候補者については山田現副代表から二人の候補者がいることが説明され、どちらも適任であることが了解された。今後、山田現副代表がコンタクトをとり、その結果をも

とに平山と山田現副代表で相談して決定することが承認された。

2. 次半期の領域運営委員確認

野村健太郎（東北大）、大橋琢磨（阪大）、羽田野剛司（ICORP-JST）（← 2010.9）

小寺哲夫（東工大）、三森康義（東北大）、橋本克之（東北大）（～2011.4）

上記の通り確認された。

3. 次々期領域運営委員（任期：2010.10～2011.9）の紹介・承認

天羽真一（ICORP-JST→理研）、井村健一郎（広大）、藤井達也（東大）

上記の通り提案され、承認された。

4. 運営委員の仕事分担の確認

・プログラム編成

業務分担を運営委員の間で調整（編成会議への出席は東京近郊の3名程度）

・領域HPのメンテナンス（1名）

担当者：大橋（2009.11～2010.9の1年間）

東京近郊の委員がプログラム編集会議に参加することを考慮して、2010.10以降の領域HPのメンテナンスは広島大の井村次々期委員にお願いすることが承認された。

・シンポジウム、招待講演、企画講演の計画（全員）

1年近くじっくり考え、任期最後の学会で何かを企画することが大変望ましい。

5. 若手奨励賞に関して

審査委員会関係者が候補者に上がった場合の対処方法を領域の内規で明確にする必要があり、すでにこれまでも行われてきたこと、すなわち、審査委員と同じ所属、あるいは対象論文が共著の候補者が推薦された場合には、その審査委員は当該候補者の審査には加わらないものとするのを明文化することが承認された。このことは、当該候補者は他の候補者と同様に候補者として扱われることを意味している。また、関連する審査委員は当該候補者の審査には加わらないが、全体の審査には加わることができる。さらに、これまでの内規では「審査委員が候補者の推薦を行うことはできない。」とあるのを「審査委員が同じ所属、あるいは対象論文が共著の候補者の推薦を行うことはできない」と限定することも承認された。これは、推薦が十分に得られなかった場合に審査委員が適当な候補者を推薦する機会を残すためのものである。

6. 領域4・7合同のグラフィックセッションについて

現在、グラフィック関係は投稿者の希望により、領域4・7合同セッションを選択することも、領域4単独セッションを選択することも可能となっている。今回はグラフィック関係の投稿の大半が合同セッションを希望し、単独セッション希望は1件に留まった。

議論の結果、投稿者の希望を優先する現在のやり方を継続することが望ましいとする意見が多数であり、合同セッションもこれまで通り継続することが承認された。